



# みんなあつまれ 検証結果（概要版）

平成30年11月22日

みんなあつまれ実行委員会事務局

# 開催概要 1

イベント名	日時	会場	来場者数※
in 湘南ベルマーレ ホームゲーム	9月22日 (土)	平塚市総合公園 (平塚市大原)	1,100人 (12,000)
in アシガラマルシェ	10月7日 (日)	酒匂川健楽ふれあい広場 (松田町松田惣領)	4,000人 (4,000)
in 日本大通 〔ホップミュージックフェスティ バル2018と同時開催〕	10月14日 (日)	日本大通 (県庁前) (横浜市中区)	20,000人 (35,000)
in 相生祭 (相模女子 大学学園祭)	11月3日 (土)	相模女子大学 (相模原市南区)	6,000人 (10,000)
		計	31,100人 (61,000)

※ ( ) は、連携イベントの集客数

- ◆主 催 みんなあつまれ実行委員会
- ◆後 援 神奈川県、横浜市、川崎市、相模原市、平塚市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、神奈川県市長会、神奈川県町村会
- ◆事業費 760万円
- ◆開催目的  
障がいのあるなしに関わらず、パラスポーツやアートやグルメなど、同じ体験を共有し、ともに楽しむことを通じて、「ともに生きる社会」を自分の身近に考えるきっかけとしていただく。

# 開催内容

## スポーツでみんなあつまれ！

- ・ 日本代表選手を含むパラスポーツ選手と一緒に、気軽に参加して楽しめるパラスポーツプログラム



## アートでみんなあつまれ！

- ・ 障がいのあるアート作家などと一緒に体験できるワークショップ、自主製品の制作の実演
- ・ みんなあつまれの象徴となる作品（みんなで作ろう！シンボルアート）を来場者とともに制作

## グルメでみんなあつまれ！

- ・ 障がい福祉サービス事業所の支援者、利用者によるパンや菓子などの飲食物の販売



## ◆来場者アンケート

イベントに来場して「共生社会」や「障がい福祉」への関心が高まったかとの質問項目については、**「関心が大いに高まった」(33.0%)**と**「関心が高まった」(52.4%)**を合わせ、**《高まった》が85.4%**となった。

「ともに生きる社会」を自分の身近に考えるきっかけづくりとする「みんなあつまれ」の目的は概ね達成できた。

## ◆出店者（障がい当事者）アンケート

ワークショップの実施や商品の販売を通して、利用者が来場者と触れ合うことができた。

- ・ 利用者の普段の活動を知ってもらう機会となった
- ・ 出店者である障害福祉サービス事業所の間で交流や情報交換ができた

## ◆憲章の理念の発信

### <成果>

- ・ イベント当日は、憲章の全文を記載したイベントチラシやうちわを配布したほか、場内で憲章を繰り返して放送するなど、多くの来場者へ憲章の理念を発信できた。  
[計11,300枚（イベントチラシ 7,000、うちわ 4,300）]
- ・ 各プログラムの体験者へのアンケートの際は、憲章を策定した経緯や目的を含めて説明し、憲章の理念の浸透に一定の成果があった。

### <課題>

- ・ 多くの来場者へ憲章の理念を発信したところであり、引き続き、継続的な発信をしていく必要がある。

## ◆地域・イベントとの連携

### <成果>

- ・ 地元の方をはじめ、多くの方に来場いただくとともに、地元で活躍する多くの障がい福祉サービス事業所が出店することができた。
- ・ 市町や連携イベントと協力し、お互いに広報を行うなどイベントの周知を実施することができた。

### <課題>

- ・ 地域のイベントと連携する手法は有効と考えられ、集客力のある会場やイベントと連携するとともに、会場内における配置などの調整をする必要がある。

## ◆その他

項目	成果	課題
広報	<ul style="list-style-type: none"><li>・ポスター1,000枚配架、チラシ28,000枚配布</li><li>・地元市町の協力のもと、広報誌への紹介記事を掲載</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・イベントのプログラムの決定に時間を要し、広報に十分な期間を確保できなかった。</li></ul>
バリアフリー	<ul style="list-style-type: none"><li>・手話通訳者の配置</li><li>・仮設のバリアフリー対応のトイレの設置など</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・バリアフリーを十分に考慮し、連携イベントを選定する必要</li></ul>



# 成果と課題 4

項目	成果	課題
パラ スポー ツ	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 延べ1,281名参加</li><li>・ 障がい者と健常者が 触れ合いながら体験</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 体験内容の密度と体 験人数のバランスを 工夫する必要</li></ul>
アート	<ul style="list-style-type: none"><li>・ ワークショップに延 べ303名参加</li><li>・ みんなが一緒になっ てシンボルアートをつ くりあげた</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ より多くの方にワー クショップを体験し てもらえる工夫が必 要</li></ul>
グルメ	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 事業所の活動の紹介、 理解の促進</li><li>・ 食べた人の生の感想 を聞くことで利用者 の励みとなった</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ ブースの装飾や呼び 込みの好事例を紹介 するなどの工夫が必 要</li></ul>

# 31年度の方向性（事務局たたき台）

- イベントの開催に当たっては、憲章の理念に繰り返し触れ、「ともに生きる」ことについて考えてもらうきっかけとなるよう、**引き続き、広がりや継続性のある展開**とする。
- 市町村等と連携した地域のイベントなど、**地域に根差した集客力の高いイベントとの連携をより充実**させていく。